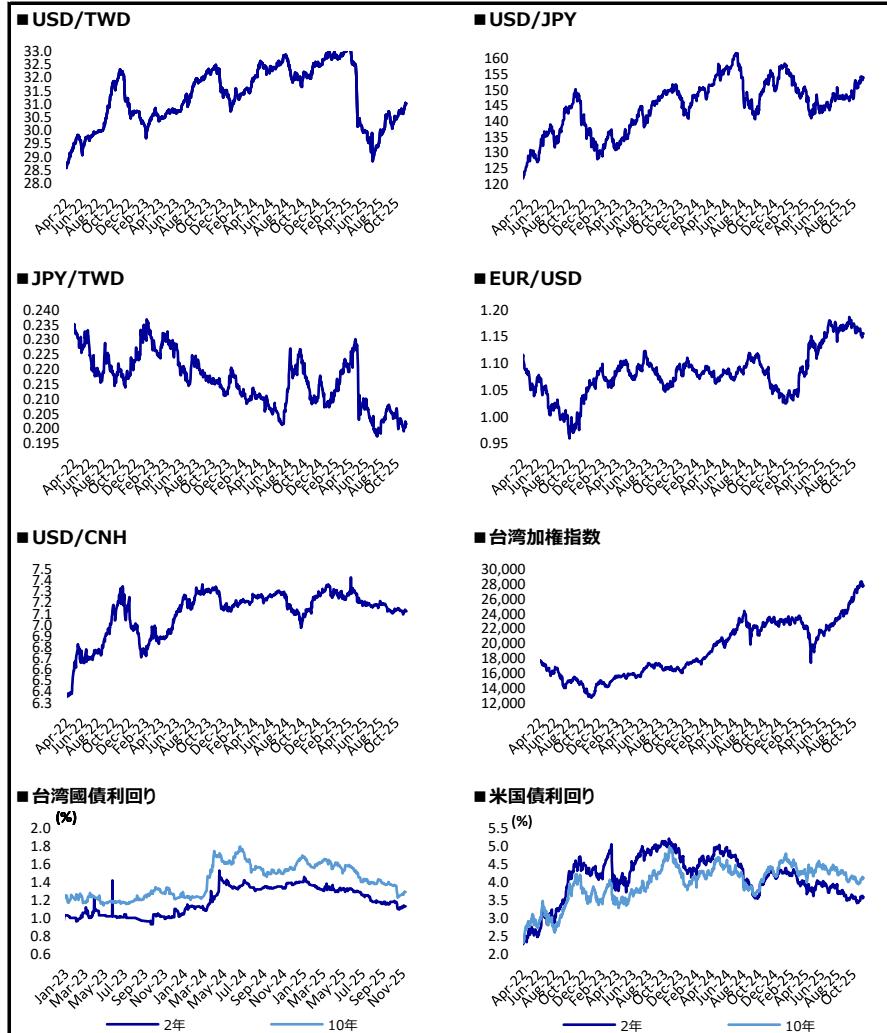


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD

先週のUSD/TWDは上昇。週初の3日、USD/TWDは30.760でスタート。海外市場でのドル高や外国人投資家による台湾株売り・資金流出を受けて台湾ドルは下落し、半年ぶりの安値を記録。終値は30.838。5日も台湾ドル続落し、30.90節目を割り込む場面もあったが、輸出企業のドル売りで下落幅は縮小し、終値は30.906。6日は米ドル指数の上昇や米国金融政策への警戒感、アジア株安を背景に外資の資金流出が加速し、ドルは一時30.986まで上昇。終値は30.954と、約半年ぶりの高値を更新。週末の7日、台湾株の下落や外資の大規模な資金流出を受けて台湾ドルは下落し、午後には一気に31元の節目を割り込みました。終日、外資のドル買いが続き、中央銀行が流動性供給やドル売り介入を行ったものの、台湾ドルは半年ぶり安値となる31.045でクローズ、前週比0.96%の上昇。週間を通じて、外国人投資家の株式売り越し額は合計1,141.2億台湾ドルとなった。

■ USD/JPY

先週のUSD/JPYは下落。週初3日、153.99円でオープンしたUSD/JPYは本邦休場で薄商いの中、154台前半で小動き。海外時間は、米10月ISM製造業景気指数の予想を下回る結果を受けて154円割れまで軟化する場面もあったが、総じて154円台前半を中心としたレンジ推移に終始した。4日、USD/JPYはドルの買い戻しが継続して一時高値となる154.48円まで上伸も、片山財務相による円安けん制発言を受けて153円台半ばに反落。海外時間は、材料難の中で、153円台半ばでレンジ推移した。5日、USD/JPYは日本株安に連れる格好で一時153円割れまで急落も、米金利反発に合わせて153円台後半に値を戻した。海外時間は、米10月ADP雇用統計や米10月ISM非製造業景気指数の良好な結果を受け、米金利の一段高を横目に154円台前半に上値を伸ばした。6日、日経平均株価が上げ幅を縮小すると153円台後半で上値重く推移。海外時間には雇用指標が軟調な結果となり、7日にかけて一時高値となる152.83円まで下落。米11月ミシガン大学消費者信頼感指数が軟調な結果となるも、米政府機関再開への期待が高まり153円台半ばまで上昇、153.45円で越過した。前週比0.35%の下落。

■ USD/TWD 予想レンジ：30.800-31.200

今週のUSD/TWDはレンジ内で上昇基調になると予想されます。米国上院の共和党リーダーが「政府閉鎖回避に向けて段階的な合意が進む」と発言したこと、短期的にドル買いの期待が高まっています。閉鎖回避が優先される状況が続ければ、ドルは引き続き強含みとなり、USD/TWDも強めのレンジ推移が見込まれます。

■ USD/JPY 予想レンジ：153.00-155.50

今週のUSD/JPYは上昇基調での推移を予想します。関税や金利差が支えとなり、円は引き続き弱含みのレンジが続く見通しです。日本銀行が現状維持の姿勢を示せば、USD/JPYは155円のレジスタンスを試す展開も考えられます。ただし、米国の経済指標や債券市場の金利動向も要注意。

今週の予想

11/10 (MON)	
11/11 (TUE)	日9月国際収支
11/12 (WED)	
11/13 (THU)	米10月消費者物価指数
11/14 (FRI)	米10月小売売上高、米10月生産者物価指数

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank